

福島原発事故被害から 健康と暮らしを守る会

会報 6号 2026.1.31



医療費の無料化継続、健康手帳の交付、完全賠償は被害者の当然の権利 原発事故から15年の節目に「核と人類は共存できない」原点に 核廃絶・脱原発と被害者救済を結んで前進しよう！

あけましておめでとうございます。誰もが「おめでとう」の辞令に一瞬躊躇しながらも慣用語だからと自らを納得させて使うほど、国内外の情勢はアメリカのベネズエラ占拠に始まり、iranのデモによる死者多発など世界は混沌としており、国内的にも大義のない解散総選挙が俎上にのぼるなど、正月早々から地震、山火事、大雪など自然災害も含めて平和と暮らしが脅かされています。昨年は被爆80年、昭和100年の節目の年でした。多くの国民がヒロシマ、ナガサキから学び昭和の皇国史観、軍国主義、侵略戦争を還りみながら二度と繰り返してはならない歴史の教訓を共有してきましたが、総資本の意思によるむきだしの利潤追求は、労働者に更なる犠牲を強い、国民の暮らしや安全、安心を脅かし、平和を奪おうとしています。強い国家を目指す高市自民・維政権はその冠であり「核」を持つことも辞さない危険極まりない内閣です。

今年は震災・原発事故から15年の節目にあたります。今も2万人以上の人々が避難生活を強いられるなど、被災者の被害は渦中にあります。私たち「福島原発事故被害から健康と暮らしを守る会」が掲げる医療費の無料化継続や健康手帳の交付、完全賠償等の課題は、被害者の「甘え」や「施し」に押し込められ困難な状況にありますが、被ばくによる健康影響の懸念や更なるリスク環境の現実と生活再建途上の下では必要不可欠、原子力災害が齎した被害者の当然の権利であり、国の責任による「被爆者援護法」に準じた「健康手帳」の交付を求めているところです。私たち「福島原発事故被害から健康と暮らしを守る会」発足から4年目になります。故馬場浪江町長の「無念」の意思を引き継ぎ、ヒロシマ・ナガサキの教訓から得た「核と人類は共存できない」という原点に立ち、核廃絶・脱原発と被害者救済運動を一体のものとして、節目を起点に更なる運動の前進をはかる決意です。

直面する課題としては、○東京電力柏崎刈羽原発再稼働阻止 ○浪江津島高裁結審・判決動向との連帶 ○廃炉・中間貯蔵施設の在り方・帰還困難区域解除の在り方等があり、会の活動はもとより他団体とも連携し、連帯してたたかいます。

2026年 初春

福島原発事故被害から健康と暮らしを守る会 会長 紺野 則夫
事務局長 佐藤 龍彦



原発事故 15 年を前に思うこと

相馬市（震災当時浪江町）柴口正武（元教員）

私の
15年

右は私にとってこの 15 年間における大きなできごとです。中でも、両親が家に帰ることなく亡くなったこと、自分が生まれ育った実家がなくなったこと、そして浪江の町民でなくなったことが辛く悲しいできごとです。

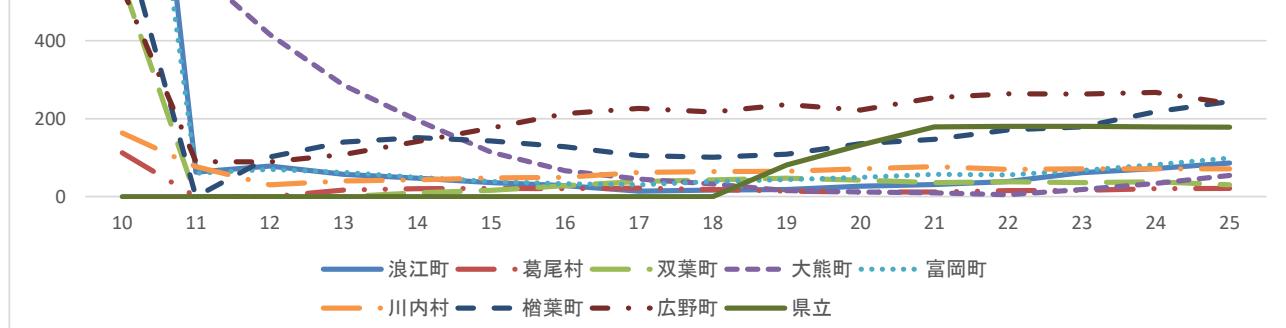
5 年前の「10 年の節目」の時、「私たち避難者にとっては単なる 10 年」に過ぎないとthoughtいました。今回の「15 年」についても同じです。私たち避難者にとって、何かが終わったり、何かが整理できたりする「区切り」ではまったくありません。「避難」がたんたんと継続することです。

【大きなできごと】

2011年 3/11	東日本大震災
3/12	避難（福島市へ）
3/13	避難（山形県遊佐町へ）
中旬	両親だけ埼玉へ
下旬	避難（郡山市へ）
2014年 4月	避難（相馬市へ）
	両親は南相馬市へ
11月	母親が脳卒中
2016年 9月	父親死去
2018年 7月	母親が福島市の施設へ
2020年 6月	実家の解体
2021年 8月	母親が死去
2022年 3月末	定年退職
2024年 8月	住民票を相馬市に異動

学校の
15年

教員であった私にとって、子どもの数の変化は一番の関心事であり心配事です。このグラフは、震災があった 2010 年度から 25 年度の 5 月 1 日時点での双葉郡各町村の学校に在籍する子どもたちの数です。双葉郡全体では震災の年度は 6,397 人、今年度は 844 人（県立は含まない）です。避難指示解除が早かった広野、檜葉、川内でさえ子どもの数は 50% 前後です。その他の 5 町村は、大きく減少したまま横ばいです。その少なくなった子どもにあっても、その半数程度は親の移住によるものです。もちろん移住による人口増、町村の活性化はよいことではありますが、双葉郡に住んでいた者としては複雑な思いです。



教職員の
15年

原発事故後、双葉郡内の学校はそれぞれの変遷を経て、双葉町を除いて地元での学校の再開をしました。その中で、かつて双葉郡の学校で勤務していた教職員は、その家庭環境や避難状況に応じて、双葉郡の学校からの距離をとるようにな

りました。表の2019年度は、「兼務」がなくなり双葉郡内での授業再開が本格的になった年度です。19年から24年の間に、双葉郡にいわゆる「由来」する教職員が半減しました。2024年度の数は、福島県教育会館発行のいわゆる「職員録」により私が「推定」したものですが、25年度となると推定すらできなくなってしまいました。

退職者の 15年

定年退職をして、福島県退職教職員協議会双葉支部の事務局長となりました。毎月1回の会報を、県内外に避難している会員に送付しています。妻は、福島県退職女性教職

員の会「あけぼの会」双葉支部の会計を担当しています。お互いに会員の名簿を管理している関係で、震災前と震災後の会員の住所がわかります。

表は、震災前（左）と後（右）の住所です。一部会員を除き、ほぼ全員が福島県教職員組合の組合員だった会員です。さらに、組合員だった退職者がすべて加入するわけではないので、双葉郡内の教職員全体としては、この数倍から10倍程度と予想されます。

浪江町	30
葛尾村	2
双葉町	8
大熊町	16
富岡町	26
川内村	1
楓葉町	18
広野町	6
107	

【退職教職員の避難先】

県外	青森県	1
	宮城県	2
	茨城県	2
	千葉県	2
	埼玉県	2
	神奈川県	1
	静岡県	1
	宮崎県	1
12		
県内	福島市	12
	二本松市	2
	本宮市	2
	郡山市	10
	田村市	1
	白河市	1
	会津若松市	2
	いわき市	32
	南相馬市	2
	相馬市	4
	桑折町	1
	三春町	1
	矢吹町	1
	会津坂下町	1
72		
双葉郡内	浪江町	3
	葛尾村	0
	双葉町	1
	大熊町	0
	富岡町	1
	川内村	2
	楓葉町	9
7		
23		

写真で見る 15年

この15年間で、私にとって大事な3つの写真があります。①2012年10月／妻と娘二人の自宅への立ち入り。長女はそれ以後一度も自宅に入っています。②2015年3月／常磐道全線開通その時の浪江町の光景。安倍元首相が「復興の起爆剤」と富岡ICで絶叫していた時、浪江町の道路にはカラスが我が物顔で群っていました。③2020年7月／実家の解体。10年目にしてようやく解体。しかしそれを見届けるべき両親は、この10年の間に亡くなりました。



15年を振り返り、募る思いは「こんなはずではなかった」というものです。人生が狂ったとまでは言いませんが、住むところが変わったり、親戚が遠く離れたり、子どもと一緒に住む時間が短くなったり・・・こんなはずではなかったのです。

福島原発事故被害から健康と暮らしを守る会

第4回総会を開催

2025年11月15日、浪江町地域スポーツセンターで「福島原発事故被害から健康と暮らしを守る会」第4回総会を開催しました。福島県内と新潟、神奈川などから約30名が参加しました。2022年10月に発足してから3年、1. 「医療費減免等」支援打ち切り反対、2. 国の責任で「健康手帳」交付、3. 完全賠償の三つの要求を柱に、全国署名を呼びかけ、双相地区を中心に県内の自治体や労組の訪問、「10団体呼びかけ」政府交渉、全国各地の原水禁・平和運動センターへの働きかけ、原水禁世界大会でのリーフ配布、等々、事務局を中心に地道に活動に取り組んできました。会のロゴマークの牛のように、ゆっくりとした歩みで、要求がすぐ実現できるような政治状況ではありませんが、多くの人々に支えられながら着実に前進していることが確認できた総会でした。開会挨拶で紹野会長は、浪江町からいわきに避難していた女子高校生が最近亡くなり葬儀に駆けつけたこと、2歳の時に事故に遭ったその子が避難先でいじめにあったことを話し「改めて原発事故の悲惨さを感じさせられた。二度とこのようなことが起こらないようにしなければ。」と訴えました。



佐藤龍彦事務局長が、総会の意義と課題、活動報告・総括・方針・当面の活動計画が提起し、「被害の実相と、情勢認識の共有、三つの課題に向けた統一行動に引き続き取り組み、事故15年に向けて運動を集約しよう」と報告しました。とりわけ、国・電力資本・総資本の総意として、東電の柏崎刈羽原発再稼働が強行されようとしていることに対し、再稼働に反対する新潟県民の闘いと連帯し、「フクシマの悲劇を繰り返さない」「命を守る闘い、自らの闘いとして位置付け」、新潟の運動と連携した福島県知事の反対表明要請・県市町村議会の反対意見決議などに取り組もうと提起しました。

新潟の参加者から「新潟県民の6割は東電に対する不信感を表明。反対理由を訴え再稼働を阻止したい。」と力強い発言がありました。また、「健康手帳のことは、まだあまり広く知らない、ウェブ署名も活用して広げたらどうか」「浪江町が町民に配布した健康手帳は、どのように活用されているのか」「守る会の課題はとても大切、特に年金生活者には非常に厳しい状況があり、命をかけるたたかいだ」等々、活発な質疑討論がされました。

総会に先立つオープニングでは日本音楽協会福島支部のメンバーによる「望郷」（作詞・曲は、葛尾村の故 小島力さん）など3曲が歌われました。また、来賓には斎藤祐樹 衆議院議員、佐々木恵寿 福島県議会議員、上壁充 いわき市議、等が激励に駆けつけました。



全国署名にご協力を！政府交渉にもご参加ください！

医療費無料化継続、「健康手帳」交付等を求め、全国署名を積み上げ、全国の「10政府交渉呼びかけ団体」やサポーターの皆さんと共に、引き続き政府交渉にも取り組みます。（次回6月頃を予定。日程決まり次第お知らせします。）福島県被災地での「公聴会/政府交渉」開催も省庁に求めています。

会員・サポーター募集！(入会ご希望の方は会費振込時に通信欄にご記入ください)

*会員：福島原発事故被害地域住民・避難者、及び団体の方々

年会費：個人（一口1000円）、団体（一口5000円）

*サポーター：全国の方々

個人（一口1000円）、団体（一口5000円）

会費・カンパの振込先：郵便振替：02200-5-129891

加入者名：福島原発事故被害から健康と暮らしを守る会



会報発行：福島原発事故被害から健康と暮らしを守る会

事務局連絡先：福島県双葉郡楢葉町大字下小塙字広畑54番地 佐藤龍彦

電話・Fax: 0240-23-4019 携帯: 090-2274-6844

ホームページ：<https://mamorukai1001.jpn.org/>